

文教厚生常任委員会記録簿				
会議日程	令和7年10月10日 9：23～10：35			
場 所	瀬戸内町役場4階 議員控室			
出席委員	永井委員長	栄副委員長	泰山委員	里山委員
欠席委員	柳谷委員			
説明のため出席した者の職氏名	仁科保健福祉課長補佐	津留介護福祉係長		
	林税務課長	與島収納係長		
付 議 事 件	1. 所管事務調査「瀬戸内町の持続可能な介護に関する調査」について			
	(担当課間取り) 1. 人材確保と担い手不足 2. 健康づくり・予防介護 3. 財政・介護保険特別会計（令和6年度見込みと実績値） 4. 地域特性とサービス提供体制 5. 先進地調査・視察に向けて			
担当職員名	宮原書記	委員長署名	永井 しずの	
会 議 の 概 要				
<p>1. 介護保険料の収納状況（税務課）</p> <p>・令和6年度収納実績： 現年度分の調定額は約2億116万7,518円に対し、収納済額は2億62万410円で、収納率は99.73%と極めて高い。 調定額280万2,620円に対し、収入済額は65万4,834円で、収納率は23.37%である。 特別徴収（年金からの天引き）の割合が非常に高いことが、高収納率の要因となっている。 普通徴収（納付書払い）の収納率は95.48%で、未納者に対しては預金調査、職場調査、差し押さえ、電話・訪問督促を実施している。</p> <p>2. 介護保険事業の現状と見通し（保健福祉課）</p> <p>・給付費の実績と予測：令和6年度の給付費は当初12億円を見込んでいましたが、実際には11億円と、約1億円下回った。今後も11億～12億円程度で推移すると予測されていますが、若年世代の減少に伴い、将来的には保険料を上げざるを得ない状況にある。</p> <p>・基金の状況：現在、介護保険基金は約2億6,000万円あり、令和6年度の繰り越しを含めると3億円程度に達する見込み。第10期計画（令和9年度～）に向け、この基金を取り崩して保険料を抑制するか検討が行われる予定。</p> <p>・人材の現状：町内の介護従事者は約200名、令和6年度の離職率は6%（12名程度）であり、全国平均の12%に比べると低い状況。しかし、従事者の6割が40～50代以上であり、高齢化が進んでいる。</p> <p>・処遇改善：処遇改善加算は算定されていますが、個々の賃金への反映状況は事業所の判断に委ねられており、行政側で詳細を把握することは困難。</p> <p>3. 介護予防と地域活動</p> <p>・予防事業の効果：足腰笑顔教室などの予防教室には延べ2,000人弱が参加。体力測定を実施した33名のうち、約3分の2（23名）において維持・改善が見られた。</p> <p>・地域の居場所：町内には19のサロンがあり、農作業等を含む40のグループ活動（登録者計927名）が展開されている。3名以上（うち65歳以上が2名）いれば、サロンとして認可される条件となっている。</p>				

会 議 の 概 要
<p>4. 委員との質疑応答（要旨）</p> <ul style="list-style-type: none">・保険料が高い要因：本町の保険料は県内ワースト5位程度と高額ですが、これは町内にサービスを受けられる施設が整っており、利用率が高いこと（サービスを利用しやすい環境にあること）が主な要因と分析されている。・利用者の動向：高額な「短期入所療養介護（リハビリ付き等）」を避け、より安価な「短期入所生活介護」へ移行するなど、利用者が費用面を考慮してサービスを選択する傾向が見られる。・施設定員の余裕：加計呂麻園（定員50名に対し40数名）や通所サービスなど、現状では定員に対して若干の余裕（空き）がある状況。・外国人雇用の現状：現在、2つの事業所で計4～5名の外国人労働者が就労しており、今後もWeb面談などを通じて増員を検討している事業所もある。 <p>5. 今後の調査計画</p> <ul style="list-style-type: none">・加計呂麻島内施設調査： 10月28日（火）～30日（木）の3日間で、加計呂麻園、古仁屋本島側の各施設を訪問し、現場の課題等を聞き取る計画を立てた。・施設側の負担を考慮し、事前に質問内容や工程表を送付した上で調整を行う。